



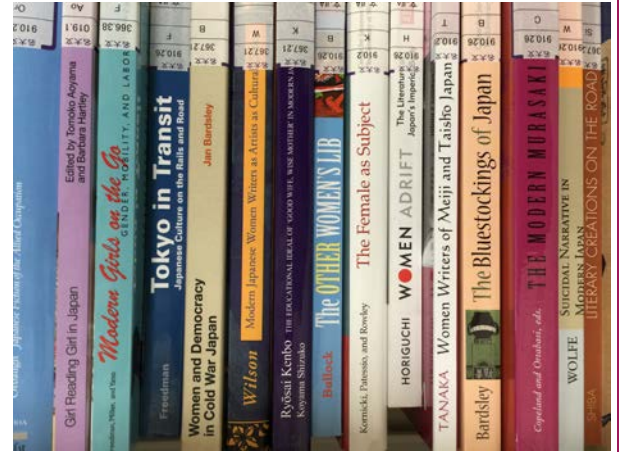
「アジアの中の日本文化」プログラム

岩田 クリスティーナ

文学部では、国際化への取り組みの一環として平成26年10月から、英語で行われる授業だけを履修することで学位の取得が可能になる教育プログラムを開設することになりました。「アジアの中の日本文化」プログラムでは、近代文学、文化史、映像学、視覚文化を中心とした日本の近現代の文化を、東アジアをはじめとするさまざまな地域との関係性の中に位置づけて幅広く学びます。

「アジアの中の日本文化」プログラムに出願できる学生は、当面、外国人留学生および帰国子女に限られます。しかしながら、従来の日本語による他プログラムとの相互乗り入れが可能になっているために、一般の学生も英語による授業を受講することができます。

なお、「アジアの中の日本文化」プログラムの開設に伴い、新たに中国、ドイツ、アメリカ出身の教員3名が文学部の教授陣に加わりました。英語力強化だけではなく、グローバルな視点から日本や東アジアについて学ぶためにも、日本人教員の英語による授業に加えて、これら3名の外国人教員による授業も積極的に受講してもらいたいと思います。英語の使用は、英語力の向上のためだけでなく、外側から「日本」を考察するためにも大きな意味を持ちます。こうした包括的な視野と複眼的な視点は、グローバル化が進展する今日の文化状況を捉えていく上で不可欠なものとなっています。このプログラムは、地球規模で文化を論じることができる素養を高める良い機会となるでしょう。



学生たちの研究生活—File6

問いを設定する！

研究室名：ドイツ文学研究室

「読書感想文と論文、レポートの違いはどこにあるだろう」。皆さんが大学生になって初めてレポートを書くことになった時、この疑問に行き当たるかもしれません。違いは、「問いの設定」にあります。読書感想文は、個人的な体験に基づいて自分の考えや思いを綴る文章であり、問いの設定は必要ありません。これに対し、論文やレポートは、ある問いを設定し、それに対する答えを論理的に導く文章です。推論を重ね、答えを証拠づける論拠を集めなければなりません。

ある本を読んで問いを設定した時、それをどのように検証し、答えを導き出して行くのでしょうか。作家が生きた時代背景に基づいて検証する方法、社会学や心理学、あるいは言語学に依拠して検証する方法。「読み」の方法は多岐に渡ります。私たちドイツ文学研究室の学生は、ドイツ文学研究に必要な知識と語学力を蓄え、論理的思考を磨いて、「読み」の幅を広げようと、奮闘しています。



私は数年来、エリアス・カネッティという作家について研究しています。ナチスが台頭する時代にファシズムの群衆現象を体験し、群衆と権力との関係を、生涯、問い続けた作家です。「権力の根源とは何か」。カネッティのこの問いは、私自身の問いにもなりました。この大きな問いに対する答えに近づくため、小さな問いを設定し、それに対する答えを導き、また別の問いを設定しながら、少しずつ前に進んでいます。

皆さんもドイツ文学研究室で、私たちと一緒に文学研究をしませんか。どんな問いでも、それに対する答えを見つけた時、世界は昨日と違って見えてくるはずですよ。

[樋口 恵 (博士後期3年 (執筆時))]

学生たちの研究生活—File7

わかりやすい文章って何だろう？

研究室名：日本文化学研究室

子どもの頃、おまけ付きのお菓子をときどき買ってもらったのですが、いつも気になることがありました。おまけの箱に書いてある、「誤^{あやま}って 口^{くち}に入れないよう注意^{ちゅうい}してください」という文。「あやまって口に入るとどうということだろう？」とっていました。

子どもが文章を読むとき、何が難しいか。まず思いつくのが漢字です。だから、漢字さえ読めるようにすればいいのではと思って、振り仮名を付けます。しかし、それだけでわかりやすくなるわけではないですね。

最近は新聞の中にも、子ども向けの記事や、キャラクターを登場させてわかりやすく解説する記事が増えてきました。これらの記事はなぜわかりやすくなっているのでしょうか？ そもそも本当にわかりやすいのでしょうか？

この疑問を解決しようと、記事の文章を分析しています。例えば、ある記事の中の語を種類別に数えてみると、同じ語を何度も使って説明していたり、話しことばに近い表現を多く使っていたりすることがわかります。また、一般の記事と子ども向けの記事を実際に読んで比べてみると、例えば「感染する」という語が「体にうつる」と言い換えられていることに気づきます。

そのほか、いま注目しているのは、文の構造です。次の2つを比べてみましょう。「30日に行われた〇〇大会で優勝した△△選手の祝賀会が昨日開かれた」と「30日に〇〇大会が行われた。その大会で△△選手が優勝した。△△選手の祝賀会が昨日開かれた」。どちらがわかりやすいと思いますか？

わかりやすい文章を書けたとしても、それがなぜわかりやすいのかを説明するのは難しいことです。時には子どもに戻って、子ども新聞を読みながら考えています。

[羽山 慎亮 (博士後期2年)]



最近の文学部

国際プログラム

今号では岩田先生に、文学部・文学研究科の国際プログラムである「アジアの中の日本文化」プログラムについてお話いただきました。急速にグローバル化する世界の中で、英語力はもはや不可欠になっていますが、より大切なことは、言語や文化を異にする人々への理解ではないかと思います。文学部には英語圏だけでなく、アジアからの留学生も多く、彼らとの自然な交流の中で、学生にいろいろ感じてもらいたいですね。(K記)

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)